

地域再生計画（地方創生道整備推進交付金）事後評価調査

都道府県名	長野県	事業実施主体	長野県 小谷村	地域再生計画名	美しい自然と豊かな資源を守り活かすむらづくり計画
計画期間	平成27年度～平成31年度	評価責任者	小谷村役場総務課 課長 上川 喜一		

	指標		基準値		中間目標値		最終目標値		事後評価	達成状況		最終目標値の実現状況に関する評価
			基準年度		年度	中間実績	基準年度	最終実績		目標総	達成数	
①地域再生計画に記載した数値目標の実現状況	指標1	地域全体における年間観光入込客数の増加	9,900百人	H25	10,200百人	H29	8,800百人	10,900百人	R1	8,229百人	×	<p>平成26年11月に発生した神城断層地震により、当地域の再生計画に大きな影響が生じたため、路線追加するなど計画変更を行い目標の達成を目指してきた。道路整備を計画通り行い、既存の観光資源と受け入れ態勢をしっかりと整備し中間実績と目標値の差を埋めるよう取り組んだが、小雪の影響、コロナウイルスの影響により、特にスキーシーズンの観光客が著しく低下してしまい、結果目標値を下回ってしまった。</p> <p>本事業の実施による林道整備に伴う観光客の安全面等に効果があったと思われ集客の増加につながった。最終年度は台風19号の影響でキャンセルが100件ほど出た出たが、それにもかかわらず目標値を達成できた。</p> <p>整備により時間短縮の目標値を達成できた。また同時に安全面での向上が効果にあらわれている。今後も観光客のためだけでなく生活する住民の基盤として大切な位置づけとし、村全体の振興に効果もたらずよう継続して道路整備をしていく。</p> <p>林道整備により資源ある山林へのアクセスは良くなっているが、特用林産物の栽培者が高齢化しているのに加え、生産組合の中核であった人が亡くなってしまい出荷量の増加に結び付かなかった。また、新規生産者の確保が進まず目標値の達成に至らなかった。</p>
	指標2	キャンプ場利用者の増	1,695人	H25	1,800人	H29	2,232人	1,900人	R1	2207人	○	
	指標3	隣接都市や医療機関へのアクセス改善		H25		H29	40分	35分	R1	35分	○	
	指標4	特用林産物の出荷量の増加	21.3 t	H25		H29	13.8 t	23.5 t	R1	14.4 t	×	
②地域再生計画に記載した数値目標以外の波及効果の実現状況	指標1	道の駅あたり来場者数（レジカウント）の増加	3,150百人	H25		H29	2,759百人	3,200百人	R1	2,586百人	-	<p>オープンから20年を迎え施設の老朽化が目立つようになってきたため、最終年度において大規模改修を行った。そのため、3か月ほど休業を余儀なくされ、来場者（レジカウント）が減少してしまった。R2以降は施設内のイメージアップ、商品レアウトの変更などから来客数の増加を見込んでいる。</p> <p>H30には4,647百人と目標値を達成していたが、最終年度は小雪とコロナウイルスの影響をうけ、スキー場来場者が3割近く大幅に減少してしまった。</p> <p>最終年度に柵池に3階建て16戸の住宅が完成した。移住者等が入居できる住宅の完成により、定住人口の増加につながった。</p> <p>本事業で複数の箇所整備を行ったことにより、アクセス時間短縮と安全防災面での機能が向上した。今後も危険箇所を中心に整備を行い、安全防災面の確保を行っていく。</p>
	指標2	冬季観光（スキー場）来場者数の増加	4,364百人	H25		H29	4,406百人	4,500百人	R1	3,662百人	-	
	指標3	村営住宅定住人口の増加	124人	H25		H29	154人	200人	R1	160	-	
	指標4	林道大池線柵池高原～柵池自然園移動時間短縮	40分	H25		H29	35分	30分	R1	30分	-	
③事業の進捗状況	事業名		整備量（その他の事業では取組内容）			事業の進捗状況に関する評価						
			計画	中間年度（H・R）	最終実績							
特別措置を適用して行う事業	村道整備事業（整備延長）		1.6km	0.2km	1.6km	今回の整備により観光地へのアクセス状況はよくなり、安全面での向上にも繋がったと考えている。今後も誘客だけでなく、住民の生活路線も考慮しつつ、観光地へから観光地への結ぶ村道の拡幅などさらに事業を行う必要がある。						
	林道整備事業（整備延長）		1.3km	0.7km	1.3km	計画箇所の整備が完了したことで、車両の対面通行が可能になったことや、崩落箇所が安全に通行できるようになった。林業振興だけでなく山岳観光において重要度の高い路線であるため、目標にかかげた「観光・交流人口増加」と「観光周遊性の向上」の目標に対し大きな効果を発揮したと考える。しかし、まだ十分とは言えず、引き続き事業実施をおこなってきたい。						
その他の事業	森林づくり推進事業		森林セラピーロード周辺の緩衝帯整備			小谷村指定の4か所の森林セラピーロードを安全に周遊するため、森林周辺の緩衝帯整備を毎年計画通り実施した。セラピーロードの周遊には周辺の道整備が非常に効果的であったと考える。今後も、観光・交流人口の増に向けて本事業を進めていきたい。						
	有害鳥獣対策事業		里山等森林整備			地権者の同意を得ることに時間を要し、森林整備が思うように進んでいない。しかし、有害鳥獣の被害に対する対策として、電気柵購入等に対する補助を行っている。今後も、人と鳥獣とのすみ分けのため、継続して本事業を行っていく。						
	観光施設整備・運営事業		柵池自然園環境整備、雨飾高原周辺施設等整備			観光客が安全に園内を周遊できるよう柵池自然園木道を予算措置して毎年整備を行った。今後も順次必要箇所を整備を行っていく。観光地へのアクセス道整備とともに、施設周辺の整備をすることで観光客が安心して観光を満喫できる環境作りを推進できたと考える。						
	観光振興事業		観光客誘客による宣伝事業			年々外国人旅行者が増加していることから、海外に向けた誘客宣伝活動を大町市、白馬村と一体で行っている。パンフレット、インターネットによる誘客、多言語の看板の整備を行った。最終年度はコロナウイルスの影響から観光客が著しく減少してしましたが、今後も観光人口の増に向けて宣伝事業を進めていきたい。						
	村営バス運行事業		バス運行による観光周遊の利便性の確保			観光場所の立地的に、周遊することはかなわないが、観光客、住民の移動手段として必要な事業である。JRとの接続も考え、公共機関を利用した観光客の対応にも重要な役割をもつ。そのためにも、道整備を行うことが密に関係しており、今後も路線整備を計画的に行っていく。						
	定住促進事業		移住者の生活基盤確保の支援事業			H25からH31まで総数97世帯、総額約40,000千円の支援を実施した。近年毎年15件から20数件の交付申請がある。移住者の定住を促すのに一定の効果があった。移住者の生活のために道の整備は重要な意味をもつので、今後も継続して路線の整備に取り組んでいく。						
	特産品推進事業		新たな加工特産品・雇用の場の創出を目指した加工貯蔵施設の建設			新たな加工貯蔵施設の建設計画は、建設費用に対して雇用の創出に対する効果が薄いという判断から断念せざるを得なくなってきた。今後は既存の施設の延命を図りながら、新たな加工品の見直しをする、原料の確保、生産者の確保等の課題に取り組んでいく。						
計画外で独自に実施した事業												
④評価方法	小谷村総合戦略審議会において効果検証を実施（実施日：令和2年11月10日）											
⑤事後評価の公表方法	長野県、小谷村ホームページに掲載											
⑥計画全体の総合評価	本地域再生計画では、小雪や新型コロナウイルスの影響により年間観光入込客目標値について、また栽培者の高齢化等の影響により特用林産物出荷量については目標を達成できなかったものの、道整備交付金を活用した村道整備と林道整備を一体的に実施したことで、災害に強く安心安全な道路環境の実現や、生活する住民の基盤づくり、観光・交流人口の増、地域活性化の効果を概ね実現できたと考えている。											
⑦今後の方針等	地域再生計画により、上記の効果があつたと評価できるため、今後も観光地へつながる村道や林道の改良工事を一体的に行い、アクセスの利便性と緊急時の安全確保を図るとともに、自然を利用した観光づくりにより交流人口を増やし地域の活性化を図ってきたい。											